

共生・公正・創造



# 東日本タイムズ号外

<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~JRTU-HWU/>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

## 【シリーズ33】

### 迫り来る包囲網を前に再豹変？ 新戦略？ そして反戦平和活動は！

・講演で正義ぶる鉄面皮さ

第3に、対談の中で前顧問が「ハワイの別荘だとか宣伝したいんでしょう」と一言だけ触れている「別荘問題」についてです。前顧問は別荘を所有しているのかしていないのかについてはコメントしておりません。

前顧問は「軽井沢、沖縄などに数件の別荘を所有している」と言われています。前顧問はこれらについて事実かどうか堂々と明らかにすべきなのです。そして（所有が事実であり）疚しいところがないのであれば購入資金について明らかにすべきなのです。

ところが「別荘問題」が問題になると、突然「福祉事業協会パンフレット」を作成して福祉事業協会所有の保養施設として、群馬・妻恋村、沖縄・今帰仁村、宮古島を紹介し、あたかも組合員なら誰でも使用できるかの体裁をとっていますが、組合の中核にいる大多数の幹部でさえ知らないものです。

ましてやパンフレットの日付が「2003年1月」になっていますが、2004年2月27日に開催された「第19回臨時評議委員会」の場で初めて配布されたものです。

また、2004年1月の「松明塾（前顧問主宰の学習塾）」の中では「有志の仲間が出し合ってつくった別荘をあたかも横領であるかのように描き出し、デッチ上げ」と、問題のもみ消しに必死になっています。

第4に、「逮捕問題」と絡んでいると思いますが、前顧問の「方針転換」についてであります。

対談の中では「反戦闘争」に関して若干にじみ出ている程度ですが、『セミナー』（2004年1月号）に掲載されている「講演録」の中で「反戦闘争」と「会社に対する姿勢」について大転換しております。

一つは「反戦闘争」についてです。「『憲法改悪反対集会に行こう』と言ったときに、『オレは賛成だから行かない』という組合員がいて当然じゃないですか。それを有無を言わず、『お前は反組合的だ』と言ってなにか生産されますか。私は生産されるとは思いません。やっぱりねばり強い議論を通じて、賛成なら賛成でいいよ、おれはこれこれの理由で反対だよ。」或いは「今まではたとえば労働組合がいわゆる『動員』で人々を集会に参加してもらって、参加を通じてその個人を強化する。こういう方法をとったと思うんですけども、これからは反対の者は反対でももちろんいいわけです。」と述べています。

憲法改悪に反対する組合員、そして組合の行動に反対する組合員の存在を全面的に肯定し、その組合員を如何に組合の側に組織化していくのかということについて触れられていない点です。

そしてたたかい方については、対談のなかでも「ストライキは出来ない」と言っていますが、『セミナー』の中でも「憲法違反の法律でも法治国家においては法律なんですよ」「どう闘うかということになると、これは違法な行動はできないんですよ。」と“できない”“やらない”ということが強調されているのみです。

現段階の状況からして反戦闘争で、東労組がストライキを実施するなどということが不可能なことは当然です。しかし従来の講演であれば「しからばどのように闘っていくのか」という具体的な方針が当然出されてきました。しかしこの講演ではそのことが明らかにされておりません。読んだ組合員（役員）や先輩のOBから「これがあの松崎さんの講演か」とビックリされる始末なのです。

付け加えてストライキに関して言えば、対談のなかで「十何年本部の委員長をやりながら、ストライキは一回もやったことがないんですよ。もう時代が違ふんですよ。民間になって経営側としっかり向き合えるかどうかという時代です。」と反戦闘争に限らずストライキそのものを否定しています。

< J R 東日本労政 『二十年目の検証』 215ページから216ページより抜粋 >

# 民主化の声・声・声・・・

2006. 1. 5 その33

## (読んではいけない?) 「小説労働組合」の読み方! (13)

～佐藤正雄氏失踪事件と、さつき会経理偽装問題～



\*それにしてもあの大元が、このように組織財産を私物化する行為をしていたとは、まだ信じられない思いもあった。「椿商事も赤字だって言っていたな。たとえば...」すかさず口をとがらせて聞いていた委員が喋りだした。「ほんまかいな。旅行業もしていたのやろ。組織内の旅行を一切取り仕切っていて、普通なら誰が考えたって赤字が累積して破産するなんてありまへんがな。他に明らかに出来ない何かあるんと違いまっか」「破産が事実だとしてもだ。破産の内容が問題だ。聞こえていたのは社長達幹部が、とんでもない高額報酬を取っていたという話だ。真相はわからないが、椿会からの借入金もたいへんな額だというぜ」「だから偽装倒産だってやりかねないな。椿商事の謎を解明しないまま幕引きをはかれば、笑うのは誰かさんだけか」「大元の息子は何の理由で社長を辞任したのか、一切報告もない。今度は経営不振で『鉄道友愛』会社に吸収合併して借金処理するっていう話だな」「辞任もそうだが、社長になったのも突然だった。それにしても分からないことばかりだ。理事長は病欠だと言うだけで内容も明らかにしないまま、暮れから連続して三回も臨時総会を招集した。そのことは早急に疚しい事実を揉み消す必要があったんだ。誰が何のために使ったのか分からない資金を、解明することなく『鉄道友愛』に買収させ、評議委員会の責任において一件落着させるという魂胆だ」「まるで政権党の大派閥の裏金、闇金の処理みたいだぜ」「鉄道友愛」は株式会社で、協会理事長の武藤が会長となっている。「武藤不在のままで臨時の評議委員会を連続して3回も開いたのは、武藤も含めて警察に疑惑を待たれているからで、その臭いものにフタをするためだろう」(p. 166 ~ 167)

東労組の組合員が配っている本であり、解説書まで出回っているわけであるが、告訴好きの団体のことを考え個人名は極力避けると、おそらくこの文脈の読み方は次のとおりであろう。

【椿商事( さつき企画 )も赤字だって言っていたな」「破産が事実だとしてもだ。破産の内容が問題だ。聞こえていたのは社長達幹部が、とんでもない高額報酬を取っていたという話だ。真相はわからないが、椿会( さつき会 )からの借入金もたいへんな額だというぜ」「だから偽装倒産だってやりかねないな」「大元( M氏 )の息子は何の理由で社長を辞任したのか、一切報告もない。今度は経営不振で鉄道友愛( 鉄道ファミリー )に吸収合併して借金処理するっていう話だな」「まるで政権党の大派閥の裏金、闇金の処理みたいだぜ」「鉄道ファミリー」は株式会社で、福祉事業協会理事長の武藤( S氏 )が会長となっている。「武藤不在のままで臨時の評議委員会を連続して3回も開いたのは、武藤も含めて警察に疑惑を待たれているからで、その臭いものにフタをするためだろう】

小説があまりにもリアルなので解説の必要もない。ただただあきれるばかりである。

民主化の声・声・声・・・ (続く)